

琉球大学学術リポジトリ

蔡温の「山林真秘」の解説と和文・英文への翻訳

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農学部 公開日: 2010-05-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Purves, John Michael, Chen, Bixia, Nakama, Yuei, 陳, 碧霞, 仲間 勇栄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/16827

The Secrets of Forestry: An English Translation of the Sanrin Shinpi (山林真秘) of Sai On

John Michael Purves¹, Bixia Chen² and Nakama Yuei³

¹ Part time lecturer in Ryukyu-Okinawan History and Culture at the Faculty of Tourism Sciences and Industrial Management, University of the Ryukyus.

² Lecturer at the School of Economics, Fujian Normal University (JSPS Postdoctoral Fellow, Faculty of Agriculture, University of the Ryukyus)

³ (Corresponding author) Professor, Department of Subtropical Agriculture, the Faculty of Agriculture, University of the Ryukyus

Abstract: Four key points are made within the *Sanrin Shinpi* (Secrets of Forestry). The first is that the best places for afforestation should be judged according to geomorphic analysis. Mountain terrain is divided into three main categories: gentle slopes, steep slopes and valleys. Gentle slopes offer the best possible conditions for tree planting, followed by steep slopes and then valleys. While agricultural land is selected according soil quality, mountain terrain and configuration are far more important factors for afforestation. The main reason for this is thought to be the way that mountains serve to mitigate the damaging impact of typhoons and winter winds on the forest. The second important point deals with the geomorphic concept of 'embraced protection'. 'Embraced protection' is a condition by which the surrounding gentle and steep-sloped mountains serve to provide protection for a forest within the enclosed area. This is rooted in the ancient Chinese system of Feng Shui and the idea of a place where there is harmony between positive and negative qi (energy). This is the optimum spot for afforestation. Within these protecting mountains is a location called the 'gate of embraced protection'. This is the place where the water from each of the valley rivers flows out of the mountain range. This spot is of such critical importance to the forest that trees must be planted and maintained here to prevent vital mountain qi from leaking out. The third important point concerns the management of timber. Selective cutting is employed in accordance with traditional forest ecology systems, thereby allowing the unhindered growth of good trees. The fourth important point deals with the appearance of a forest. By studying the condition of trees from afar, it can be determined whether the forest is youthful, overmature or in decline.

I. 序 論

1. はじめに

現在、山林真秘については、その原本の所在は不明で、その筆写本のみが琉球大学付属図書館の宮良殿内文庫に保存されている。その末尾には「乾隆三十三年戊子仲秋穀旦 蔡翼廷儀」と書かれている。この山林真秘は蔡温がその子の蔡翼に伝授(崎浜秀明, 1984)したものとみられているが、この筆写本からすると、乾隆三十三年は1768年であるので、蔡温が没してから7年後のものということになる。

天野は沖繩大百科事典(沖繩タイムス社、1983)の山林真秘の項で、1751年ごろ、蔡温が中国人にも理解し易いように、杣山法式帳(1737)の趣旨を漢文で詳述したと書いているが、詳細は不明である。

蔡温の著書といわれているものに、順流真秘、実学真秘、架橋真秘などがあげられている。蔡温は1735年8月には羽地大川の改修工事に着手している。そのとき参考にしたと見られる順流真秘などは、彼が中国留学中(1708~1710)や進貢副使(1716)のときに学んだものと考えられることから、その他の実学真秘・架橋真秘・山林真秘などの真秘シリーズも同時に学び琉球にこれらの文献を持ち込んできたと推測できる。したがって、杣山法式帳以前には、すでに山林真秘は存在し、その技術論が応用

された可能性も考えられる。真秘とは真栄田(蔡温、沖繩大百科事典、1983)によれば、科学の意味だという。現在の森林学や地理学で使われる学の意味に近いものであろう。

この山林真秘が後の杣山法式帳の原典となったのであれば、その内容を現代語に訳する意義は大きい。山林真秘については、崎浜秀明が『蔡温全集』で要約的に解説している。仲間・周(地域と文化、第37・38合併号、1986)らは、この山林真秘を全文和訳している。今回、外国人にも理解できるように、この仲間・周らの和訳文を一部修正して、漢文と和文を併記して英訳し、その内容について検討した。林政八書については、USCAR(琉球列島米国民政府、1952)が英訳を試みている。しかし、山林真秘については、その内容が漢文であることもあって、全文の英訳は見当たらない。漢文からの英訳はJohn Purvesと陳の二人が、また序論と要約は仲間がそれぞれ担当した。

2. 山林真秘の内容

山林真秘の中で論じられている主要な点は4つある。

第1点は地形解析による造林適地の判断である。山の地形を嶺地、峰地、澗地の三つに分け、さらにそれらを上中下に分類し、そのうち嶺地が造林するのに最も良い地形であるとし、以下、峰地、澗地の順に序列化している。

この地形を重視する考えは同時期の日本における農学者の中

でも異色である。近世期を代表する日本の農学者宮崎安貞は「農業全書」(1697)(山田・井浦、1978)の「山林之総論」で、次のようなことを述べている。

「おおよそ木を植える所は、深山幽谷の土地で、厚く深く肥えた所が良い。高い岡(山の背)はこれに次ぐ。……おおよそ有用の材木、果実の樹木に至るまで、よくその地味を知らないでは、心力を尽くして植えても、利益にならない。」(仲間訳)

宮崎安貞によれば、木を植えるとき、第一に考えるべきは、その土地の地味である、とされる。つまり、その土地の地質が肥えているかどうか、大事だという。

ところが琉球の蔡温は、「山林真秘」や「杣山法式帳」(1737)(土井林学振興会、1976)などで、次のようなことを言っている。

「田圃は土の性質をよく選ぶが、山林は土の性質を選ばず、山形が適当かどうかによって、樹木の生長は決まる。山形が不適だと、土が肥えていても、樹木はよく生長しない。山形が適当だと、土が痩せていても、樹木はうまく生長する。」(仲間訳)

宮崎安貞が森林地味説だとすると、蔡温は森林山形説ということになる。その大きな理由は、かれらの抛って立つ自然観の違いに見出せる。つまり主に朱子学にもとづく自然解釈に立つ宮崎安貞と、地形を重視する風水思想に立脚した蔡温の自然解釈論とは、考え方の根本が異質なのである。蔡温が地形を重視する根底には、琉球の自然環境、すなわち、冬の北からの季節風と台風時の風の問題への対策が大きく影響していると考えられる。

第2点は抱護の地形概念の重要性についてである。抱護とは嶺地や峰地の周囲を山々が囲って保護している状態のことである。この考えは風水の気概念に由来するが、その気が安定した場所こそ、造林適地となる。山には「抱護之門」がある。これは山脈が交叉した各谷川の流出口のことである。この場所は山林の気脈にかかる所であるので、樹木で閉じて山の気が洩れ出ないようにせよという。

第3点は山林の取り扱い方である。山林の法則とは、択伐(selective cutting)によって、いい木を育てることである。

第4点は林相の見方である。遠方から植生状態を見て、幼令林、過熟林、荒廃林かどうかを判断する。山全体の植生状態から、人間の伐採による植生遷移状況を把握する実践的な技術論となっている。

3. 山林真秘と杣山法式帳の用語法

山林真秘と杣山法式帳の内容は、ほぼ同じであるが、用語法に若干の共通点や違いが見られる。

表1は、山林真秘と杣山法式帳で用いられているキーワードを比較したものである。この表から、大きな違いを拾い出してみると、まず一つは、山林真秘が漢文で書かれているのに対して、杣山法式帳は候文体でまとめられていることである。候文体は近世日本の古文書等に一般に見られる文体で、近世琉球の公文書でも普通に使われている。

二つ目は、杣山という言葉の使い方である。この用語は山林

表1 山林真秘と杣山法式帳の用語法の比較

山林真秘 (1768)	杣山法式帳 (1737)
漢文	候文
同内容	杣山見様之事
—	杣山
—	山敷
山林	—
山形	山形
—	祖山
気(山気)	気(山気)
陰陽和生之地	陰陽和生之地
抱護	抱護
抱護之門	抱護之閉所
山林気脈之所	—
—	杣山養生之事
同内容	遠山樹木見様之事
龍珠	—
魚鱗	—

真秘にはみられない。杣山の言葉は、私見によれば、和製用語で律令制国家社会まで遡る古い言葉である。近世期の琉球で一般に使われている言葉で、王府の御用木を生産する場所として区分され、その管理利用については、各地の村落共同体にゆだねられていた。日本の古代社会では神社や寺院の用材確保のために指定された場所で、その管理は各神社や寺院が特別に雇用した人々によって行われていた(仲間、1984)。

三つ目は、共通の用語として抱護という言葉が使われていることである。この言葉は、風水思想でいう気概念と深く関係しているが、山林真秘と杣山法式帳の両者の自然認識の方法が共通の思想に基盤を置いていることを想定させる。

四つ目は、魚鱗という言葉についてである。杣山法式帳には、この言葉はない。1747年、山奉行から王府に報告され、それが規定となって、琉球国中に令達された樹木播植方法には、よく知られた魚鱗形の植林方法が説かれている。山林真秘では、十数年経った樹林の木の色や森の状態を龍珠や魚鱗にたとえている。樹木播植方法でいう魚鱗形とは、ススキやチガヤの原野に魚の鱗状に穴を開け、そこに木を植えるという植林技術のことを指している。したがって、魚鱗という概念は共通するが、その応用技術はまったく別である。

以上のことから、山林真秘と杣山法式帳の両者には、自然認識の根底に風水思想が共通項として確認でき、さらに細かく点検すれば、その文体と用語法(杣山、魚鱗)に若干の違いが見られることである。

II. The Chinese, English & Japanese¹ Texts of the *Sanrin Shinpi*

夫材木者、人世萬事之大要也。人世萬事、皆頼材木之力而能修焉。若夫不頼材木之力、則田不能耕、屋不能構、衣不能織、陶不能造、冶不能鑄、海不能涉、其餘之事、無不皆然。唯世俗之人、知林材之可用、而忘人間萬事之在于林材、是林

¹ The Japanese text included here is virtually identical to the first translation of the *Sanrin Shinpi* by Nakama Yuei and Zhou Yaming published in the journal *Chiiki to bunka* in 1986. Time limitations have meant that only minor corrections to this text have been possible. Changes have been made to its organization, with sentences and paragraphs adjusted to match the Chinese and English versions. 地域と文化、第37・38合併号、1986.

法之所興也。

Wood is of great importance to human societies, with almost every aspect of life being reliant upon it. Without wood it would be impossible to plow the fields, build houses, weave clothing, make pottery, cast iron or cross the oceans. Wood is indispensable for many other things. Yet people think only of how to make use of wood, they have forgotten and today do not understand that the resources upon which they so heavily rely depend on there being proper forest practices.

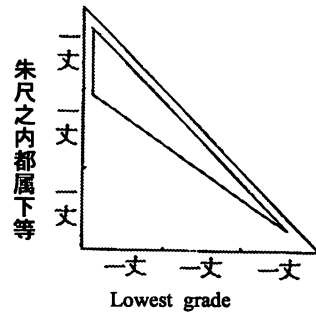
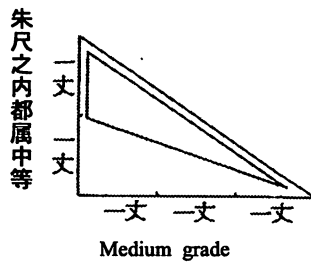
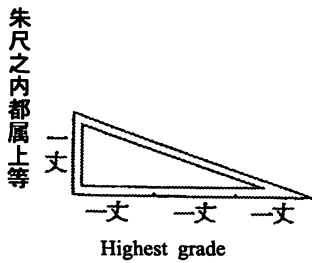
木材を採ることは、人間の生活にとって、大事なことである。人間の生活は、すべて木材のおかげで、うまくやってこられた。もしも、木材の力を頼らなければ、人間は、田が耕せなくなり、家屋が作れなくなり、衣類が織れなくなり、陶器が作れなくなり、鉄が鋳られなくなり、海が渡れないようになる。このように、人間

の生活にとって、木材は必要不可欠のものなのである。けれども、世俗の人々は、木材の利用ばかりを考えて、人間の万事に大切な木材が、正しい林法のあり方によって左右される、ということをおぼえている。

嶺地之形、不豎不倒、兼屬陰陽。故有美材好生嶺地。尺式如左：

Since gentle mountain slopes² are neither too steep nor too flat they are in harmony with Yin and Yang. For this reason lush forest can be grown there. The gentle slope inclines are shown on the left (below).³

嶺地は山形や勾配が丁度適当にあり、陰陽に属しているので、「嶺地には美材がよくできる」、といわれる。勾配は左記のとおり。



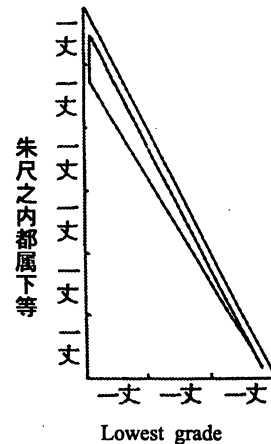
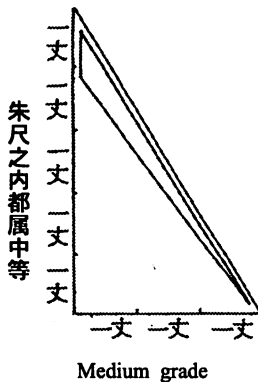
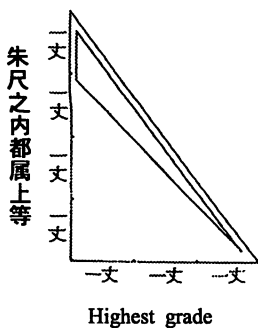
Note: In the original text, the inner triangles were drawn in red ink.

峰地之形、豎起難登、乃屬純陽。故美材不好生峰地，尺式如左。

Since steep mountain slopes are too sharply inclined and too difficult to climb they belong to pure Yang and for that reason

it is difficult to grow lush forest there. The steep slope inclines are shown on the left (below).⁴

峰地は急峻で登りにくく、純陽に属しているので、「峰地には美材はよくできない」、と言われていた。勾配は左記のとおり。



Note: In the original text, the inner triangles were drawn in red ink.

² The term 'gentle' is an appropriate contrast to 'steep' when discussing mountain slopes, particularly in the context of the diagrams Sai On uses for illustration. In an earlier article, Nakama Yuei defined *reichi* as a "平らな勾配" (*tairana koubai*), which can be translated as an 'even incline'. Nakama Yuei, "Somayama seisaku no senryaku", *Shimatatei*, Number 40, 2007, page 6.

³ 一丈, one *zhang*. A *zhang* is a unit of length, equal to about 3.03 meters. The diagrams below illustrate the main grades of gentle mountain slopes based on the degree of incline, with the best grade (a) at 1-by-3 *zhang*, the medium grade (b) at 2-by-3 *zhang* and the lowest grade (c) at 3-by-3 *zhang*, respectively.

⁴ The diagrams below illustrate the main grades of steep mountain slopes based on degree of incline, with the best grade (a) at 4-by-3 *zhang*, the medium grade (b) at 5-by-3 *zhang* and the lowest grade (c) at 6-by-3 *zhang*, respectively.

峰地尺式有三等可辨。但此三等，猶足觀之。若夫愈豎愈起而過尺式，則樹木雖生，必不足觀焉。

Steep slopes can be divided into three grades according to the degree of incline. Although forest growth is possible on more acute grades of steep slope, the quality of that forest will be very poor.

峰地は、勾配によって、三等に分けられる。この三等までは、樹木は何とか育つ。もし、右図の下の寸法以上に、勾配の急な峰地があったら、そこには樹木は育たない。

兩山之間，稍有平坦之地，之謂澗地。乃屬純陰。純陰，即樹木之所忌也。

The flattish area located between two mountains is called a valley. Because valleys belong to pure Yin they are not suitable places for growing forests.

二つの山の間のやや平坦な所を澗地という。そこは純陰に属するので、樹木がよく育たない所である。

嶺地四面，有諸山相圍，而為護衛者，之謂抱護。

When surrounding mountains serve to protect a gentle slope by enclosing it this is known as embraced protection.⁵

嶺地に対して、その周囲を山々が囲って保護していることを抱護という。

嶺地之前，有高山相對，而能護我者，之謂對峙。

High mountains located in front of gentle slopes and which provide them with protection are called facing mountains.

嶺地の前に、高山が向かい合って保護していることを對峙という。

嶺地之前，亦有嶺地，而為對護者，之謂相對峙。

A gentle slope located in front of another gentle slope thereby creating conditions of mutual protection is known as a mutually facing mountain.

嶺地の前に嶺地があつて、互いに保護していることを相對峙という。

諸山互交，而百谷之水，合成一水，走流外面之處，之謂抱護之門。即是山林氣脈之所係也。

The gate of embraced protection is the place through which the water from each of the valleys that came together from the overlapping mountains to form a single current flows out of the mountain. This place is profoundly connected to the qi⁶ vein of the mountain.⁷

諸山が重なり合い、各谷からの水が一流に組み合わさって、山外へ流れていく出口は、抱護の門といわれる。そこは山林の気脈にかかる所である。

嶺地 抱護堅圍，對峙有得其宜，是上等也。

The highest grade of gentle slope is where embraced protection is sound⁸ and where there is a proper⁹ facing mountain.

抱護の状態が良く、嶺地を囲った諸山が合致していて、對峙の益を受けているのは上等である。

對峙雖得其宜，抱護之山或欠一處或抱護遠離，而氣不屬於我者，是中等也。

A medium grade of slope is where there is a proper facing mountain but where qi cannot be accumulated because the embraced protection is either slightly defective¹⁰ or because the embracing mountains¹¹ are too distant.

對峙の益を受けているが、抱護の山々が少し欠けているか、または遠く離れてその氣を得ていないのは中等である。

⁵Surrounding mountains used to mitigate the impact of damaging winds are one example. On a smaller scale trees can be utilized to surround a village or a single household to offer similar protection.

⁶There are many ways of translating the term qi. In this context, 'energy', 'vitality' or perhaps 'life-force' are acceptable.

⁷Being of critical importance to the retention of mountain qi.

⁸That is, where the surrounding mountains, known as 'embracing mountains' or 'mountains of embraced protection' are configured closely together, thereby constituting an effective barrier. The idea is not to stop the flow of winds into the forest entirely, but rather to weaken the impact of the strongest winds during tropical cyclone conditions or other such damaging weather. When embracing mountains are closely configured and effective in this role, the embraced protection can be described as 'sound'. Clearly, there are degrees of soundness, depending on how effective the protection is.

⁹Proper here means conforming with ideal mountain configuration conditions in the sense that the facing mountain is of an appropriate height and located at an appropriate distance from the gentle slope.

¹⁰In the case that a gap or gaps occur in the surrounding mountains as a result of them not being configured closely enough together then embraced protection can be defined as 'defective'. As was the case with soundness, of course, there are degrees of defectiveness depending on the number or size of the gaps.

¹¹The term 'embracing mountains' is interchangeable with 'mountains of embraced protection'.

對峙不得其宜，抱護之山亦陷欠及遠離，而氣不屬於我者，是下等也。嶺地之形有三等，而抱護，對峙之可辨，亦有三等。如此然則嶺地之形屬於上等，而抱護對峙各能全具者，百林之內，指非難屈。

The lowest grade of gentle slope is where there is no proper facing mountain and where qi cannot be accumulated because the embraced protection is either defective or the mountains of embraced protection are too distant. Gentle slopes can be divided into three grades according to the degree of incline, and three further grades according to the effectiveness and distance of the embraced protection and facing mountains. It is extremely rare to find a high grade gentle slope with both sound embraced protection and facing mountains.

對峙の益を受けていなくて、抱護の諸山は欠け、あるいは遠く離れてその氣を得ていないのは下等である。嶺地は勾配によって三等に分けられるが、その抱護と對峙の分け方によって、嶺地はさらに三等に分けられる。嶺地という山形は上等に属するが、抱護や對峙の各長所をすべてそなえている山形は、とても少ない。

峰地 抱護嚴密，能含陰氣者，是上等也。

The highest grade of steep slope has sound embraced protection and can accumulate Yin energy.

峰地、抱護が良く合致していて、陰氣を含んでいるのは上等である。

抱護雖密，處々陷欠而氣有洩者，是中等也。

A medium grade steep slope has embraced protection but this is defective in places and consequently qi escapes.

抱護が合致していながら、山氣が洩れているのは中等である。

抱護雖不陷欠，抱護之山相離甚遠而氣不屬者，是下等也。峰地之形有三等，而抱護之可辨亦有三等。如此然而生美材尤稀。

The lowest grade of slope is where qi cannot be accumulated because while there is embraced protection, these mountains are too distant. Steep slopes can be divided into three grades according to the degree of incline, and three further grades according to the soundness of the embraced protection. It is rare, however, to find lush forests on steep slopes.

抱護の山々は欠けていないが、遠く離れていて、その氣が得られないのは下等である。峰地は勾配によって三等に分けられ

るが、その抱護の状態によっても三等に分けられる。峰地には美材はまれにしかできない。

澗地 稍廣平處，陰中受陽，是上等也。在于嶺地之間，而借其力者，是中等也。在于峰地之間，專受陰氣者，是下等也。澗地三等，但非美材所生。

The highest grade of valley is a widish flat area which belongs to Yin but which also receives Yang energy. A medium grade of valley is located between gentle slopes from which it obtains embraced protection. The lowest grade of valley is located between steep slopes and receives only Yin energy. Although there are three grades of valleys, these are places where lush forest can only rarely be grown.

少々平らで広いところは陰であるが、陽も受けているので上等である。嶺地の間にあつて、その力を借りているのは中等である。峰地の間にあつて、もっぱら陰気だけを受けているのは下等である。澗地には三等あるが、そこはめったに美材ができない所である。

嶺地，乃美材之所生也。然而高過對峙，則其過處反屬純陽，切當辨之。是故，嶺地高與對峙反低，則其嶺半好半不好。抱護高低，亦當依這樣而觀焉。

A gentle slope is a place where lush forest can grow well, but if it happens to be higher than the embracing mountains then that part of the gentle slope located above the embracing mountains belongs to pure Yang. It is important to judge this very carefully. The consequence of a gentle slope being higher than the embracing mountains is that only part of the slope is protected. One should also bear these points firmly in mind when inspecting the height of the embraced protection.

嶺地は美材がよくできる所であるが、それが抱護よりも高くなつたら、その越えた部分がかえって純陽に属するようになる。よく氣を付けて判断しなくてはならない。そういうわけで、對峙が嶺地より低いと、その嶺地の育林適地の半分はよくない。抱護の高さについても、このことを念頭において観察したほうがよい。

嶺地之裔，靠着對峙甚近，而氣似澗地者，美材不多生。是故，嶺地對峙之間，須必以計遠近之宜為要。

It is difficult to grow lush forest at the foot of a gentle slope when it is close to the facing mountains on account of the qi there being similar to that in valleys. It is important for there to be an appropriate distance between gentle slopes and facing mountains.

嶺地の裾が對峙にかなり接近していて、その氣が澗地のような所には、美材はあまりできない。それゆえ、嶺地と對峙の間の

適度な距離を考慮しなければならない。これは大切なことである。

雖為嶺地之體，或有峰地混雜之處；雖為峰地之體，或有嶺地混雜之處，大槩諸山皆然，當能辨焉。

There are mountains with gentle slopes, but intermingled among them are those with steep slopes. And there are mountains with steep slopes, but intermingled among them are mountains with gentle slopes. Since this is the case with most mountains, one must consider this carefully.

嶺地の形をしているが、中に峰地が混ざり合ったり、峰地の形をしているが、中に嶺地が混ざり合ったりする。たいていの山々はそうである。

嶺地對峙之間，有小岳得其宜者，樹木好生。不得其宜者，則澗地一樣，不足觀之。且兩峰之間，雖有小岳，能得其宜者尤稀。然兩峰之間，其地稍廣而有小岳，則其岳足勝澗地。

When hills are located both between and a proper distance from a gentle slope and facing mountain and benefit is received from them, forests can grow well on such hills. Hills that are located both between and a proper distance from a gentle slope and facing mountain but which do not receive benefits from them are similar to valleys and for this reason trees will not grow well there. It is rare for a hill to be located between a gentle slope and facing mountain, and rarer still for a hill to be located at a proper distance from a gentle slope and facing mountain. In the case that there is a wide area located between a gentle slope and facing mountain, however, a hill is preferable to a valley.

嶺地と對峙の間にある丘は、それらの益を得ている場合なら、樹木はよく生えるが、得ていない場合なら、澗地同様よく生えない。なおまた、二つの峰地の間に丘があっても、その益が得られるのは非常に少ない。しかし、その丘は、面積がやや広ければ、十分に澗地に勝る。

抱護，對峙全具而嶺地廣大處，最為上好。足為大船之樁者，出于大嶺。大嶺之地氣力旺興，小嶺之地氣力微弱，其理寔然。其變無窮，可能盡心。

Gentle slopes that have both facing mountains and embraced protection, particularly if that area is expansive, are by far the best. The type of timber used for the masts of large ships is almost always grown on larger slopes. As a general rule, the qi of large slopes is strong, while that of small slopes is weak, although there are an infinite number of variables. For this reason, judgments must be considered carefully.

嶺地が抱護や對峙をもっていて、しかもその面積が広大であ

れば、一番よい。普通、大船の帆柱に使う木は、ほとんど大嶺に生えている。大嶺は氣力が旺盛であるが、小嶺は氣力が弱い。それは当然のことである。しかし、その変化は果てしないから、よく考えて判断しなければならない。

嶺地乃陰陽和生之地。故抱護對峙雖不全具，而樹木猶足觀焉。然嶺地其頂則樹木不好生。但對峙高起，抱護堅圍而嶺地得其宜者，則嶺地之頂亦樹木有好生。

Gentle slopes are in harmony with Yin and Yang. Even in the case that there is no facing mountain or that embraced protection is defective, trees can still grow quite well. Although trees do not normally grow well at the summit of gentle slopes, if the facing mountains are higher than the gentle slope and if there is sound embraced protection that the gentle slope receives benefit from, trees can grow well even at the summit.

嶺地は陰陽が調和している所であるので、抱護や對峙がなくても、樹木は育つ。普通、嶺地の頂上には樹木はあまりよく生えない。しかし、對峙が嶺地より高く、抱護の山々が合致していて、その益をよく得ている場合には、嶺地の頂上にも樹木はよく生える。

峰地雖為純陽，在于抱護嚴密之間者，則借于陰氣之力，而樹木猶足觀焉。

Steep slopes are places of pure Yang, but if they are located between mountains where embraced protection is sound, trees are able to grow well there because they receive benefit from Yin energy.

峰地は純陽な所であるが、抱護の密着した間にあると、陰氣の力を借りているから、樹木は立派に生長する。

澗地雖為純陰，在于兩嶺之裔者，則借于嶺地之氣，而樹木亦足觀焉。山林之地，變易不定，宜能用心。

Valleys are places of pure Yin, but when located between two gentle slopes trees can grow quite well there because they receive benefit from Yang energy. Since mountain forests are subject to such a range of conditions, however, it is essential to take great care.

澗地は純陰な所であるが、二つの嶺地にはさまれた場合には、嶺地の氣を頼って樹木はうまく生える。ただし、山林は変幻極まりない場所であるから、よく心を配る必要がある。

對峙遠近高低之宜否，唯在于氣味而已，需能慮焉。遠離則氣不屬於我，而失其宜。甚近則氣強逼我，而失其宜。過高則氣妄壓我，而失其宜。太低則氣不護我，而失其宜。抱護之山，遠近高低亦其氣味，則與對峙無異。唯其氣味不可以言說之，

多歴諸山，則其氣味之妙必有自然默識者矣。

We use qi to judge whether the distance and height of facing mountains is appropriate. This must be very carefully considered. It is not appropriate when facing mountains are too distant because qi cannot be accumulated. It is not appropriate if facing mountains are too close for the reason that the qi is too strong, putting the forest under great pressure. It is not appropriate when facing mountains are too high since this puts excessive qi pressure on the forest. It is not appropriate when facing mountains are too low because no qi benefit is obtained. As in the case of facing mountains, we use qi to judge whether the distance and height of embraced protection is appropriate. While it is extremely difficult to properly express the meaning of qi in words, it is something one will come to understand naturally after surveying many mountains.

対峙の遠近や高低が適当かどうかというのは、その気によってのみ決められるにすぎない。よく考えなくてはならない。対峙が遠く離れていると、気が受けられなくてその益も次第になくなり、接近し過ぎると、気に強く迫られてその益もなくなり、高すぎると、気はやたらに押さえ付けられてその益もなくなり、あまりにも低くなると、気が保護してくれないので、その益もなくなる。抱護の山の接近・高低の気のあり方も、対峙の場合と同じである。残念ながら、気については言葉でよく説明できないが、常に諸山を踏査して経験を積み、気の微妙なことが、自然に理解できるようになる。

抱護之門，是山林氣脈之所係也。須能以樹木堅閉其門，不使山氣洩通最為要。若伐其樹，妄開其門，使山氣洩通，則山林漸受其病，而林樹終見濯々之憂矣。深可戒焉！深可戒焉！

In view of the fact that the gate of embraced protection is profoundly connected to the qi vein of the mountain, it must be tightly closed off with trees so that qi cannot escape. This is extremely important. Carelessly felling trees at this location will open the gate and allow qi to escape. The forest will gradually become unhealthy as a result and trees will decrease in number. We must not allow such a situation to occur.

抱護の門は山林の気脈の所であるから、必ずそこは樹木で閉じて、山の気が漏れないようにしなければならない。これは大事なことである。もし、むやみにそこの木を切つてその門を開いてしまうと、山林は次第に病気にかかり、樹木も少なくなっていく。深く考えなくてははいけない。

抱護之山，四圍堅牢最為要。辰戌丑未之位，有山陷欠而風入者，之謂四維之病，樹木必不好生。其陷欠處，多植樹木，四補一二，其病或免。

In terms of the mountains of embraced protection, the most

important consideration is that the surrounding mountains be closely configured. If the mountains of embraced protection are defective, wind will be able to enter and trees will not grow well. This is known as the sickness of the four directions. It may be possible to avoid this if we can plant trees in one or two of these directions and repair the defective points in the embraced protection.

抱護の山々は、四圍が堅牢であることが一番重要である。辰戌丑未(東南西北)の各方位の山が欠けて風が入ってくると、樹木は立派に生長できない。これを四維の病という。陥欠した所に、樹木を植えると、その病気は治るかもしれない。

大抵樹木之性，喜陰潤，忌曝乾，故林樹多處，互賴其陰，而能茂生。樹木少處，其陰亦少，而樹必易衰。只須多植諸樹，以增其陰，初則所生之材，雖不足觀，漸次好生，終成林樹之美。

Trees tend to like damp shady locations and dislike dry and exposed ones. Where there are many trees together they can grow very well because they are able to rely on each other for mutual shade. When there are only a few trees little shade is provided and as a result it is easy for the forest to deteriorate. By planting many trees we can increase the amount of shade, and although poor quality forest is what we may initially observe it will improve gradually, ultimately transforming into lush forest.

樹木はたいいてい湿り気の多い日陰を好み、日が照りつける乾燥した所を嫌う性質を持っている。木が多い場合は、互いに日陰を頼りあってよく茂る。木が少ない場合は、日陰も少ないから、樹木は衰えやすい。しかし、各種の樹木を多く植えて日陰を増やせば、樹林は始めは立派に見えないが、次第に元気に生えてきて、しまいにはよい樹林になる。

田圃能撰土性，山林不撰土性，唯觀山形之宜否而已矣。山形不得其宜，則其土雖肥而樹木不好生。山形得其宜，則其土雖瘦而樹木好生。

We choose where to cultivate rice according to soil quality, but in the case of forests it is the configuration of the mountains rather than soil that determines tree growth. If the mountain configuration is unsuitable, even if the soil is rich, trees will not grow well. If the configuration of the mountain is good, even if the soil is thin, trees can still grow very well.

田圃は土の性質をよく選ぶが、山林は土の性質を選ばず、山形が適当かどうかによって、樹木の生長は決まる。山形が不適だと、土が肥えていても、樹木はよく生長しない。山形が適当だと、土が痩せていても、樹木はうまく生長する。

平坦廣大處，專受風日之氣，雖屬純陽，而多植諸樹以成大

林，則其樹互頼陰潤，變為陰陽和生之地。然而平坦廣大之地，足為農田，故不敢為林地。

Receiving qi entirely from the sun and wind, wide and flat areas are places that belong to pure Yang. If a large forest is created here by planting many trees, however, trees can rely on one another for the provision of mutual shade and the area can be transformed into a harmonious place of Yin and Yang. Because such areas can be used for cultivation, however, wide and flat areas should not be too hastily used for forest land.

平坦で広い原野は、もっぱら風や日の気を受けていて、純陽に属する所ではあるが、樹木を多く植えて大きな樹林をつくれれば、木々が互いに目陰を頼って、和やかな陰陽地にかわる。しかし、平坦で広大な土地は、農田として利用できるの、やたらに林地に使ってはいけない。

大凡樹木以高直為美，以矮曲為惡。高直之樹，雖為小木，愛之惜之，則必終成美材。矮曲之樹，雖為大木，不足為美。奈世俗之人，唯思我力之易取，不慮美惡之可辨。隨目貪取，隨手妄伐，是山林憔悴之所不免也。能知山林之法者，必有其心，而能伐之，故山林逐年而致茂盛。不知山林法者，必無其心，而妄伐之，故山林逐年而致憔悴。雖有惡木百條，不若美木一條，當能慮焉。

Generally speaking, tall and straight trees are best, while short and gnarled trees are the worst. When great care and attention is taken to nurture tall and straight trees, even saplings, the result will be good quality timber. In the case of gnarled trees, not even large ones will produce good timber. If people think only of their immediate timber needs without distinguishing good from bad trees, careless felling will occur resulting in the deterioration of the forest. This is one of the primary causes of forest decline. Those who understand the natural laws of forests¹² should choose which trees are to be cut down, since they can rationally determine what will best produce lush forest. If this approach is taken we will be able to grow lush forests step by step. In contrast, if people with no understanding of the natural laws of forests make these choices, since they are unaware of what is required to produce lush forests, trees will be carelessly cut down and this will lead to the decline of forests. The maxim that "one good tree is better than a hundred bad ones" can be universally understood.

普通、樹木は真っ直ぐなものがよくて、曲がったものは悪いと

いわれている。真っ直ぐな木は、たとえ幼樹であっても、大切に育てると、しまいには美材になる。曲がった木は大樹でもよいとは限らない。しかし、世俗の人々は自分の取りやすいことばかりを考えて、木の善悪を区別せず、勝手気ままに切っている。これは山林を衰退させる原因の一つである。山林の自然法則を知っている人々は、山林を繁茂させることに心がけているので、必ず樹木を選びとる。そうすると、山林は段々と茂るようになる。他方、山林の自然法則を知らない人々は、山林を繁茂させることに無頓着であるため、むやみに切り取り、その結果、山林はついに衰えてしまう。一本の良木は百本の悪木に勝る、ということは、誰にでも分かる事柄である。

山林盛衰，必係土民之所致，或係國法之所致，其所致一也。能知山林之性者，必遵其性，建法布教。故山林歷年無衰，材木舉國無欠。

The prosperity or deterioration of forests is determined by the way local people are involved and by the nature of national laws. Those who understand the natural laws of forests must educate others with this knowledge and devise forest practices that are in accordance with them, thereby endeavoring to maintain thick and lush forests and ensuring that our country will not experience a shortage of timber.

山林の盛衰は、その地域の住民のかかわり方や、国の法律のあり方などによって決まる。山林の法則をよく理解している人は、必ずその法則に従って山林制度を立て、また、その知識を教えたりする。そして、山林を絶えず繁茂させ、国内で木材が欠けないよう努力するのである。

附

Supplementary

初生之林，遠以望之，則其林每樹略似筆尖。

When looking at a grove of young trees from afar every tree should resemble the tip of a calligraphy brush. [See Appendix Figure 1]

幼令樹は遠くから見ると、木立の状態が筆先に似ている。

再歴十數年，則林樹默々，略似龍珠。

When looking at the intense black of a forest after more than ten years has elapsed, the shape of each tree should bear a slight resemblance to a dragon pearl. [See Appendix Figure 2]¹³

¹²A person with an understanding of what we would today refer to as forest ecology.

¹³This appears to be a mistake, probably made when an earlier version of *Sanrin Shinpi* was being copied. In the original *Somayama houshikichou* (杣山法式帳) upon which *Sanrin Shinpi* is based the order of the second and third descriptions are reversed, with the 'fish scale' shape preceding the 'dragon pearl.' This error would have been discovered far sooner if the original illustrations from *Somayama houshikichou* had also accompanied *Sanrin Shinpi*.

十数年たつと樹林は真っ黒に見え、木の形は少し龍珠に似る。

又歴十數年、則其形黙々、略似魚鱗。形似魚鱗然後、其林之梢纔足用之。

After more than ten years again, the shape of every tree should resemble a fish scale. If this is the case, the trees will be perfectly useable. [See Appendix Figure 3]

また十数年たつと、その形は魚のうろこに似てくる。そうなると、樹木は梢までも十分利用できる。

處々伐木、則其所伐形如鱗脫。其林之材、可知猶盛。

When looking at the shape of a felled area of forest and it looks as if a scale has fallen off a fish, that mountain is rich in good quality timber. [See Appendix Figure 4]

山林の伐採跡地の形が、うろこがはずれたように見えたら、その山には木材が大変豊かに存在する、ということである。

伐木既多、則處々發現白枝、可知伐木之多。

If white branches are visible here and there this is a result of too many trees having been cut down. [See Appendix Figure 5]

至る所に白い枝が見えたら、木を切りすぎた状態である。

枯枝多現、逆曲既多、可知山林之為衰。處々枯木出于樹梢、可知憔悴之極。

If it appears that there are many gnarled or dead branches the forest is falling into decline. If the treetops are withered here and there, the forest is in a state of complete decline. [See Appendix Figures 6 and 7, respectively]

枯れ枝や曲がりくねった木が多く現われていれば、その山林は衰えている。随所に木の梢が枯れていたら、山林は極めて衰えた状態である。

蒼々如綠野、無形可説、可知非為材木之林。

If there is dark green foliage but no clearly discernable shapes visible, there is no timber on the mountain. [See Appendix Figure 8]

綠野のように深緑色をしているが、その外観の形ははっきり見分けられなければ、材木が取れるような林ではない。

凡樹之梢、矯曲生枝、可知其木高直既極。

If new branches grow out of the top of trees gnarled, the forest is going into decline. [See Appendix Figure 9]

木の梢が曲がって、生えてきていたら、その木は高くまっすぐに生長しない。

右之一卷不殘相傳之、雖然猶須用工夫、於現敷要傳其意味、不然卻反覆之。汝盡心竭力山林樹木、使致茂盛、是我所希也。

Conveying the meaning of the text above is not easy. When reading, one needs to carefully consider its essential meaning, otherwise it may have the reverse effect and be counterproductive. If you can apply yourself whole-heartedly to forests and thereby bring about lush growth, I will have achieved my ambitions in writing this.

右の文の意味を残らず伝えるのは、容易なことではないが、実際に利用するときは、特にその内在の意味を考えなければならない。さもないと、かえって、悪くなるかもしれない。あなたが山林に心を傾けて、樹木を茂らせることを、私は念願する。

乾隆三十三年 戊子仲秋穀旦
蔡翼廷儀¹⁴

1768. A good day in Mid-autumn
Cai Yi Ting Yi (J. Sai Yoku Tei Gi)

一七六八年 仲秋のある穀旦
蔡翼廷儀

参考文献:

1. 天野鉄夫. 1983. 山林真秘. P.265. 沖縄大百科事典. 沖縄タイムス社.
2. 崎浜秀明. 1984. 蔡温全集. P.205-225. P.300-303. 本邦書籍株式会社.
3. 立津春方. 1937. 林政八書. P.119-126. 東京図書株式会社.
4. 土井林学振興会. 1976. 林政八書. P.1-18. P.51-56. 土井林学振興会.
5. 真栄田義見. 1983. 蔡温. P.169-170. 沖縄大百科事典. 沖縄タイムス社.
6. 仲間勇栄・周亜明. 1986. 山林真秘. P.21-25. 地域と文化. 第37・38合併号. 南西印刷出版部.
7. 仲間勇栄. 2002. 村落環境の管理システムとしての山林風水の意義—近世琉球の村落・林野景観を事例として—. P.39-46. 人間・植物関係学会誌. 第2巻第1号. 人間・植物関係学会.
8. 仲間勇栄. 1984. 沖縄林野制度利用史. P.22-24. ひる

¹⁴ The Chinese name of Sai On's eldest son.

- ぎ社。
9. 山田龍雄・井浦 徳. 1978. 日本農書全集. 第1 2 卷. P.120. 農山漁村文化協会.
 10. USCAR. 1952. Eight Volumes on Ryukyu Forest Administration By Saion. Forestry Bureau Department of Natural Resources Government of the Ryukyu Islands.
 11. USCAR. 1953. Ryukyu Islands Forest Situation Special Bulletin No.2. p.53-54.

要 約

山林真秘の中で論じられている主要な点は4つある。第1点は地形解析による造林適地の判断である。山の地形を嶺地、峰地、潤地の三つに分け、そのうち嶺地が造林するのに最も良い地形であるとし、以下、峰地、潤地の順に序列化を行っている。田んぼは土地の性質を選ぶが、山林は山形の状態が樹木の生長に大きく影響するとしている。その主な理由は冬の北風と台風時の風をいかにコントロールするかに拠っていると考えられる。

第2点は抱護の地形概念の重要性についてである。抱護とは嶺地や峰地の周囲を山々が囲って保護している状態のことである。この考えは風水の気概念に由来するが、その気が安定した場

所こそ、造林適地となる。山には「抱護の門」がある。これは山脈が交叉した各谷川の流出口のことである。この場所は山林の気脈にかかる所であるので、樹木で閉じて山の気が洩れ出ないようにせよという。

第3点は山林の取り扱い方である。山林の法則とは、森林を勝手気ままに切るのではなく、真っ直ぐな幼樹は育て、曲がった木は大木でも伐採し、山林を繁茂させるようにすることである。これは現在の択伐 (selective cutting) 的施業方法の考えと同じである。

第4点は林相の見方である。遠方から植生状態を見て、幼令林、過熟林、荒廃林かどうかを判断する。人間の伐採で植生遷移は変化するが、その状況を林相の違いで分類するやり方である。

山林真秘と杣山法式帳には、風水思想にもとづく自然認識の考えが共通項として見出せる。抱護、山気、抱護之門 (抱護之閉所)、陰陽和生之地などの言葉は、風水的に山林をみる場合に重要なキーワードである。山林真秘にはすでに魚鱗という言葉がみられ、この魚鱗は樹木播植方法で魚鱗形の植林法として応用されている。

この山林真秘には、沖縄の自然環境の中で、山林をどう取扱いたいのか、学び生かすべき点が多い。

III. Appendix: (「杣山法式帳」より転載)

Accompanying Illustrations

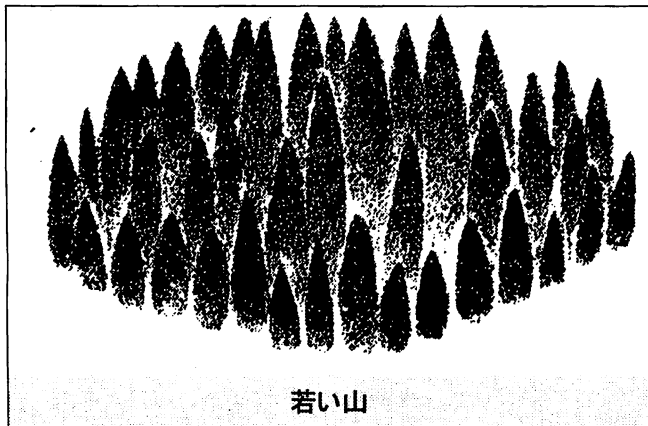


Figure 1 A young forest

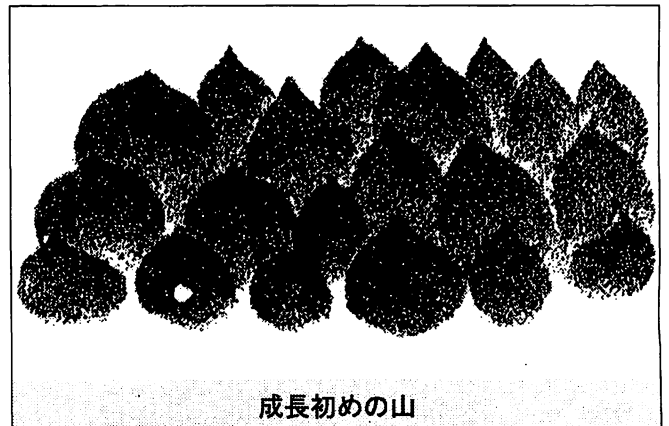


Figure 2 the forest is starting to grow

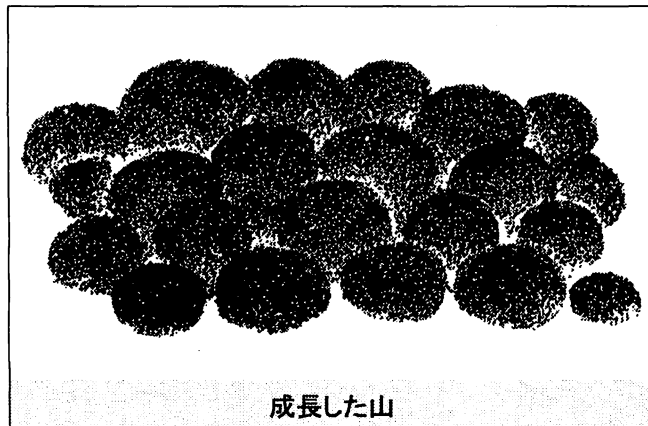


Figure 3 Trees at the height of their growth



Figure 4 Gaps visible among the trees show that timber has been cut



Figure 5 many large trees have been cut down in the forest



Figure 6 A forest with only a few good trees remaining is in decline



Figure 7 A forest in full decline



Figure 8 A bushy mountain upon which only grass appears to be growing

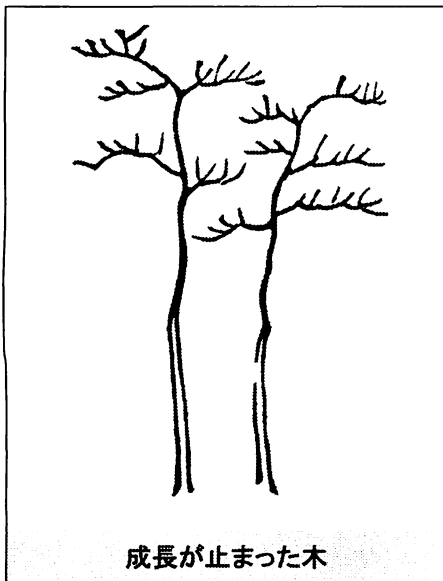


Figure 9 Trees which have stopped growing